

高度医療・人材育成拠点ビジョン（仮称）  
～みんなの病院構想～

【第 4 章 目指す姿の実現に向けた方針】

令和 4 年 3 月 24 日

広島県地域保健対策協議会  
保健医療基本問題検討委員会

# 「高度医療・人材育成拠点ビジョン（仮称）」の構成

## 第1章 目指す姿

## 第2章 現状と課題

## 第3章 目指す姿の実現に向けた考察

## 第4章 目指す姿の実現に向けた方針

1 広島県の医療提供体制に係るSWOT分析

2 拠点到期待される役割

3 拠点到求められる高度医療機能

4 拠点到求められる人材育成・供給機能

5 拠点到整備に向けて

第1回～第3回  
地対協

第4回地対協

# 1 広島県の医療提供体制に係るS W O T分析

		機会 (O)	脅威 (T)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域医療構想 (広島県) 〈84〉</li> <li>・ 新公立病院改革ガイドライン (総務省) 〈71〉</li> <li>・ 200万人広島都市圏構想 (広島市) 〈86〉</li> <li>・ 新たな治療技術 (先端医療) の開発 〈57,58〉</li> <li>・ 低侵襲治療のニーズ拡大</li> <li>・ デジタル技術の進化 (メディカルDX構想) 〈61,62,63〉</li> <li>・ 総合診療専門医のニーズ拡大 〈38〉</li> <li>・ 若手医師は多くの症例を経験したい 〈45〉</li> <li>・ 医師の働き方改革 (2024年度~) 〈49,50,51〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者人口の増加 〈1,2〉</li> <li>・ 生産年齢人口の減少 〈1,2〉</li> <li>・ 医療需要の増加 (神経系, 新生物) 〈3,4,5,6〉</li> <li>・ 死亡率の増加 (悪性新生物, 心疾患) 〈12,13〉</li> <li>・ 医療需要の減少 (小児) 〈3,4,5,6〉</li> <li>・ 新興感染症の発生 〈66〉</li> <li>・ 豪雨災害の頻発, 南海トラフ地震</li> <li>・ 若手医師の減少 〈39,40,41,42〉</li> <li>・ 増え続ける医療費 〈17〉</li> </ul>
<>は図表番号			
強 み ( S )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基幹病院の先進医療</li> <li>・ 基幹病院の低侵襲治療</li> <li>・ 先進治療設備 (ダ・ヴィンチ, ハイブリッド手術室) 〈53,59〉</li> <li>・ 基幹病院が連携した放射線治療施設 〈55〉</li> <li>・ 全県的な医療ネットワーク「HMネット」 〈61,62,63〉</li> <li>・ 地域医療連携推進法人 (備北)</li> <li>・ 中山間地域への医師派遣 (安佐市民病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島大学と連携した高度先進医療の提供</li> <li>・ 高度先進医療による医師の誘引</li> <li>・ 高額医療機器の共同利用</li> <li>・ デジタル技術やデータを活用した医療の質の向上</li> <li>・ 機能分化・連携の深化による地域完結型医療</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脳・心疾患医療の充実</li> <li>・ がんの集学的治療, 最新の低侵襲治療</li> <li>・ 小児医療の充実・高度化</li> <li>・ 周産期医療の充実</li> </ul>
弱 み ( W )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の分散, 非効率な医療体制 〈24,27,28〉</li> <li>・ 広島都市圏における重複する医療機能 〈24〉</li> <li>・ 救急搬送困難事案の割合が高い 〈9,10〉</li> <li>・ 救急搬送困難の理由が「処置困難」 〈11〉</li> <li>・ 医師の高齢化 (若手医師の減少) 〈40,41,42〉</li> <li>・ 医師・診療科の偏在 〈37,38〉</li> <li>・ 無医地区の増加 (全国ワースト2位) 〈35,36〉</li> <li>・ 初期臨床研修医のマッチング率に改善の余地 〈41〉</li> <li>・ 新興感染症に対応する専門人材の不足 〈65〉</li> <li>・ 病院施設の老朽化 〈25〉</li> <li>・ 病院経営の逼迫 〈70〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域医療構想に沿った病床再編</li> <li>・ 医療機関の機能分化・連携</li> <li>・ 症例集積による若手医師の誘引</li> <li>・ 人事情報の共有による効率的なマッチング</li> <li>・ ライフステージに配慮した勤務場所</li> <li>・ 総合診療医の育成</li> <li>・ 医療資源の集約, ガバナンスの統合</li> <li>・ 柔軟で機動力のある病院の運営形態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児医療の集約</li> <li>・ 医療資源集約による救急患者応需率の向上</li> <li>・ 医師のキャリア・アップと生活支援</li> <li>・ 指導医の育成・確保, 適正な評価</li> <li>・ 研修プログラムの充実</li> <li>・ 感染管理認定看護師等専門人材の育成</li> <li>・ 感染拡大に対応 (転用) 可能な病棟</li> <li>・ 南海トラフ地震を想定した浸水対策</li> </ul>

# 社会保障制度改革国民会議報告書（抜粋）

（2013年8月6日 社会保障制度改革国民会議）

## Ⅱ 医療・介護分野の改革

- 高齢化の進展により、疾病構造の変化を通じ、必要とされる医療の内容は、「病院完結型」から、地域全体で治し、支える「地域完結型」に変わらざるを得ない。
- 医療改革は、提供側と利用者側が一体となって実現されるもの。  
「必要なときに必要な医療にアクセスできる」という意味でのフリーアクセスを守るためには、「緩やかなゲートキーパー機能を備えた「かかりつけ医」の普及は必須。」
- 医療を利用するすべての「国民の協力と国民の意識の変化」が求められる。
- 「急性期医療を中心に人的・物的資源を集中投入し、早期の家庭復帰・社会復帰を実現するとともに、受け皿となる地域の病床や在宅医療・介護を充実。」川上から川下までの提供者間のネットワーク化は必要不可欠。

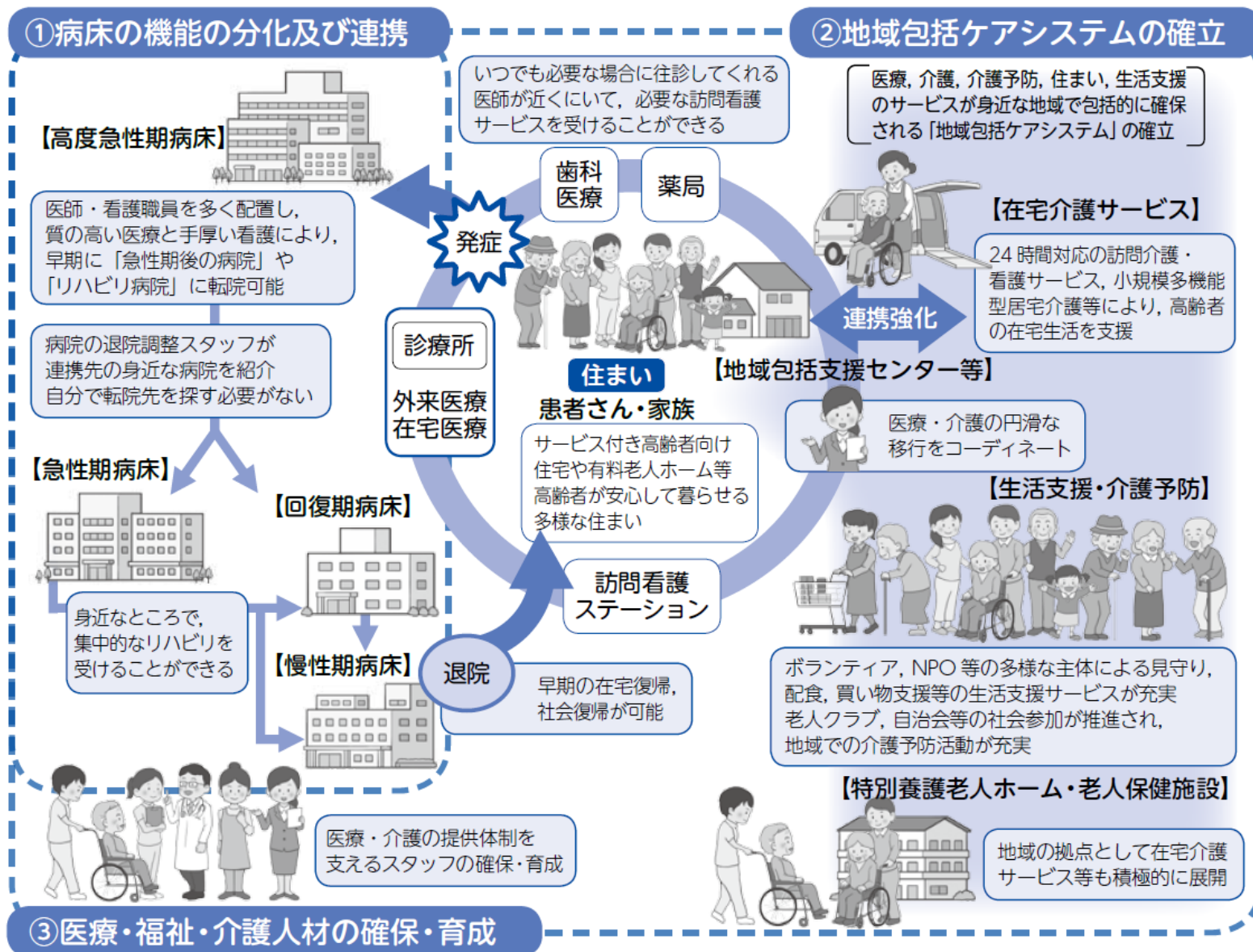
# 広島県地域医療構想（2016年3月）（抜粋）

## 〈基本理念〉

身近な地域で質の高い医療・介護サービスを受け、  
住み慣れた地域で暮らし続けることができる広島県の実現

- 限りある医療・介護資源を効率的に活用するため、病床の機能の分化及び連携による質が高く切れ目のない医療提供体制の構築と地域包括ケアシステムの確立を一体的に推進します。
- 病気・けがの治療を一つの病院だけで行う、これまでの「病院完結型」の医療から、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療へ転換することで、身近な地域で医療・介護サービスを受けることができる体制を整備するとともに、地域包括ケアシステムを支える医療人材、福祉・介護人材の確保・育成を行い、住み慣れた地域で暮らし続けることができる広島県の実現を目指します。

# 将来のあるべき医療・介護提供体制の姿



# 200万人広島都市圏構想（抜粋）

圏域経済の活性化と圏域内人口200万人超の維持を目指します！

- ・ 広島広域都市圏発展ビジョン
- ・ 「世界に誇れる『まち』広島」人口ビジョン・創生総合戦略

## 【医療提供体制の充実】

- 広島市民病院，広島大学病院等の基幹病院や地域の医療機関の病床の機能分化及び連携強化などにより，質の高い効果的・効率的な医療提供体制の構築に取り組む。

（第2期「世界に誇れる『まち』広島」人口ビジョン・創生総合戦略）



広島広域都市圏…広島市の都心部から概ね60Kmの圏内にある25市町

# 「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」

## 目指す姿（10年後）

全国トップレベルの高度・専門医療や最先端の医療を提供できる中核的な機能を整備し、県民に高い水準の医療が提供されています。また、こうした高度な医療や様々な症例の集積、医育機関との連携・協働を進め、魅力ある医療現場として若手医師に選ばれることで、新たな医師等の育成・派遣の拠点として、県全域の医療提供体制が確保されています。

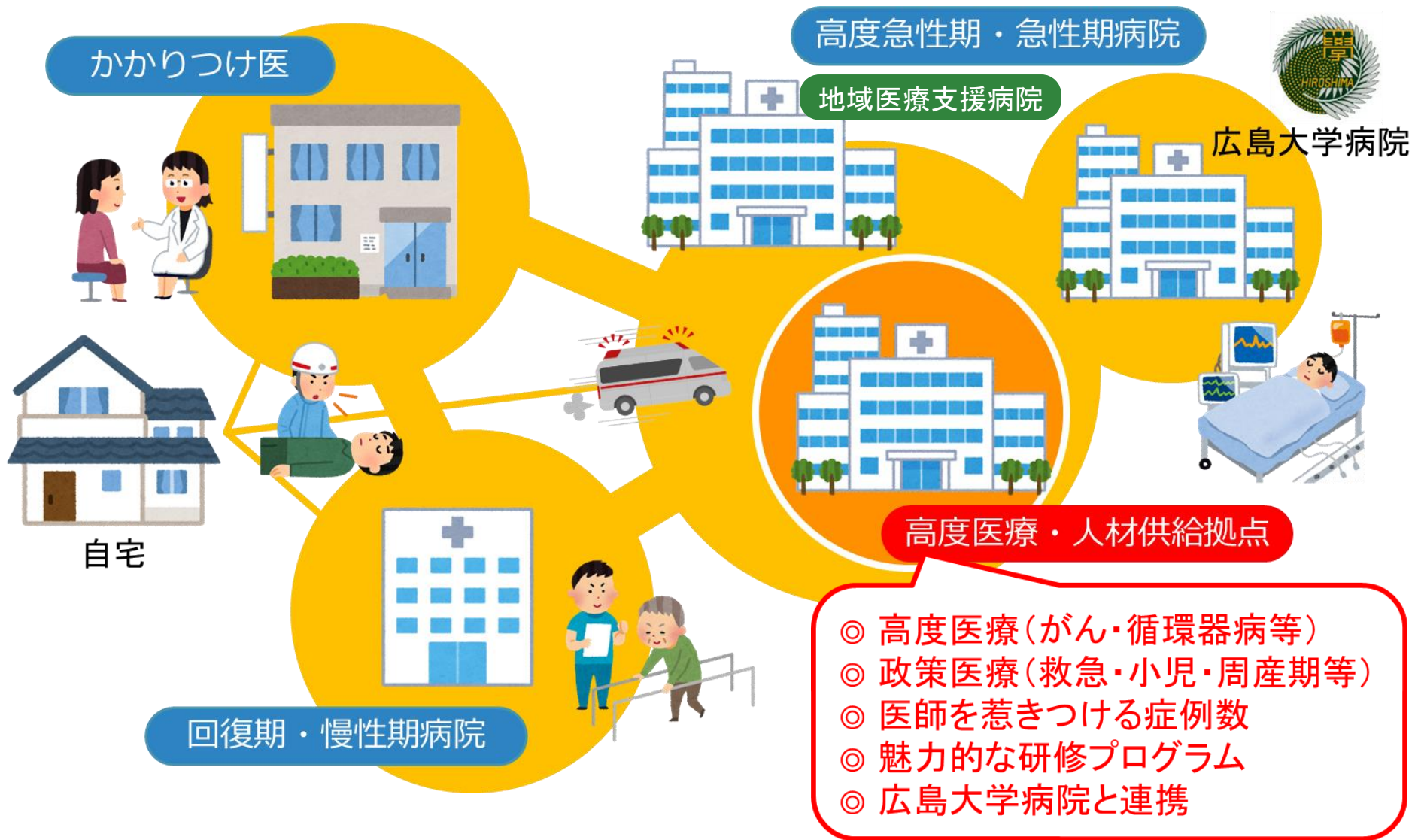


## 2 拠点に期待される役割

---

- (1) 高度・急性期医療を担う基幹病院として、救急・小児・周産期・災害医療・感染症への対応など、県民の医療需要に応える。
- (2) 広島都市圏を中心とした医療機能の分化・連携により、医療資源や様々な症例を集積することで、県民に高度な医療を提供する。
- (3) 地域において核となる拠点病院への医療人材の供給・循環の仕組みを構築することにより、中山間地域の医療を守り、持続的な医療提供体制を確保する。

# 集約と機能分化・連携による地域完結型医療



## 高度医療・人材供給拠点

- ◎ 高度医療(がん・循環器病等)
- ◎ 政策医療(救急・小児・周産期等)
- ◎ 医師を惹きつける症例数
- ◎ 魅力的な研修プログラム
- ◎ 広島大学病院と連携

## 医療資源の集約による効果

- ✓ 症例が集積され、経験値が高まることで治療成績が上がる。
- ✓ 多くの症例を経験できることで県外から医師が集まる。
- ✓ マンパワーの充実により、救急患者の応需率が高まる。
- ✓ マンパワーの充実により、新興感染症対応力が高まる。
- ✓ マンパワーに余力が生まれ、医療従事者の負荷が減る。
- ✓ 広域的な人事交流により、医師の偏在解消が図られる。
- ✓ 高額医療機器の稼働率が上がり、採算性が向上する。

### 3 拠点に求められる高度医療機能 ①

分野	求められる医療機能
救急	<p>➤ <b>救命救急センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ E R 及び救急応需率の高い救命救急センターの整備により，救急搬送時の現場滞在時間を短縮</li> <li>・ 応需率を高めるため，人材を集約</li> <li>・ 救急救命士等を活用したタスクシフトにより医師の負荷を軽減</li> <li>・ 小児救命救急センター及び外傷センターを併設し，専門性の高い救急医療を提供</li> <li>・ 豊富な症例が経験できる施設として若手医師を誘引</li> </ul>
小児	<p>➤ <b>小児救命救急センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P I C U（小児集中治療室）6床以上を整備</li> <li>・ 小児循環器外科医を配置し，小児心臓手術に対応</li> <li>・ 一次救急から高次救急まで即応性が高い最善の救急医療を提供</li> </ul>
周産期	<p>➤ <b>総合周産期母子医療センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周産期医療体制の充実（市中医療機関との機能分化・連携）</li> <li>・ 生殖医療の高度化</li> </ul>
がん	<p>➤ <b>がん治療センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんの集学的治療，標準治療の症例集積（ハイボリュームセンター）</li> <li>・ 最新の低侵襲治療</li> <li>・ 薬物療法チーム，HIPRACと連携した放射線治療，緩和ケアチームの育成，がんゲノム診療部の検討</li> </ul>

### 3 拠点に求められる高度医療機能 ②

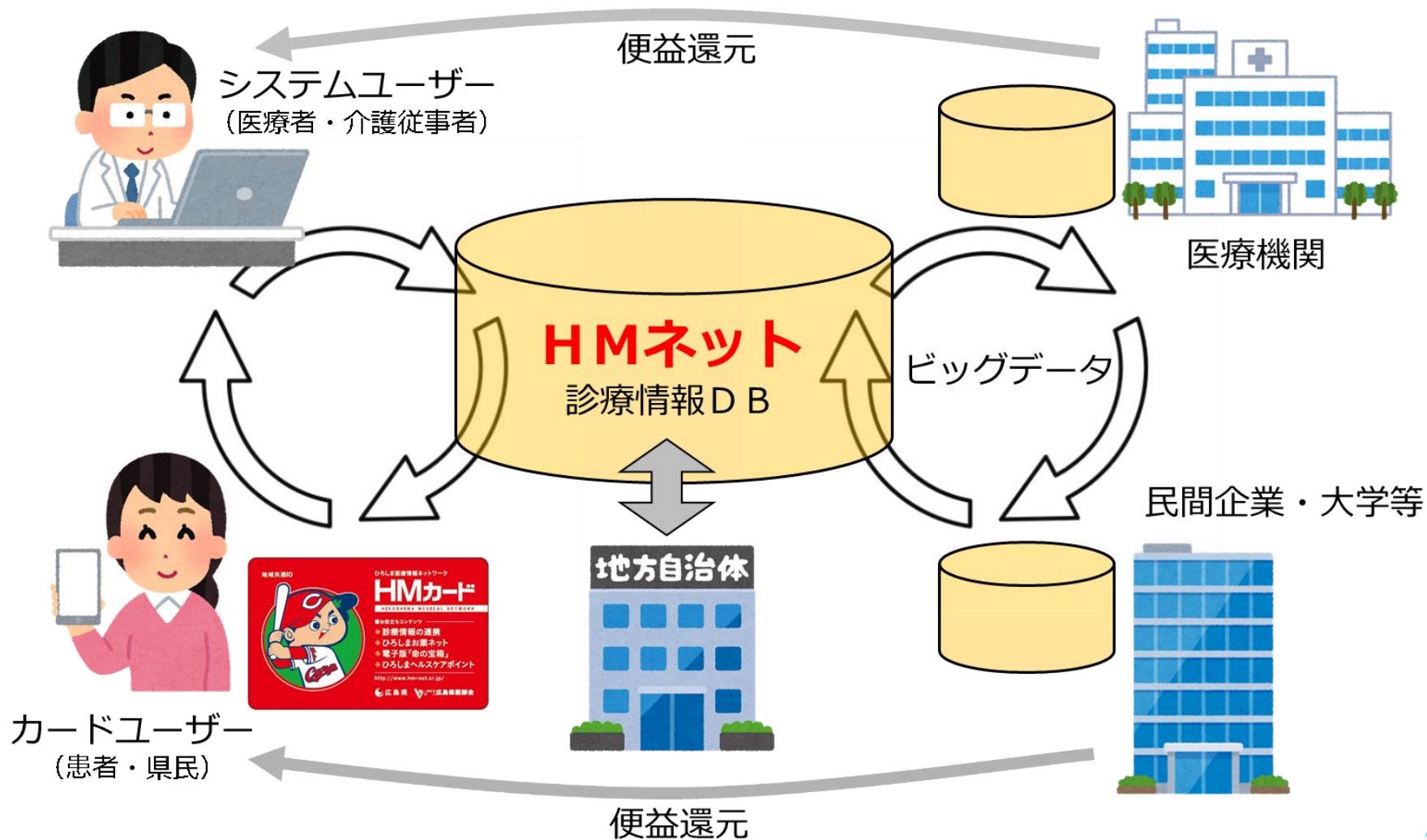
分野	求められる医療機能
脳・心疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>脳・心臓・血管疾患の患者への対応</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の増加が見込まれる疾患に対応（脳心臓血管センター，脳卒中センター）</li> </ul> </li> <li>➤ <b>慢性疾患を抱える患者への対応</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急度，重症度の高い急性期の患者に加え，慢性疾患の患者の増悪時に対応（不整脈，心不全患者に係る圏域内の医療機関のキャパシティを調査する必要がある。）</li> </ul> </li> </ul>
精神	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>児童精神科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な要因で学校へ行けない児童・生徒や発達障害児への対応</li> </ul> </li> <li>➤ <b>精神科救急</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自傷他害や複合疾患の救急患者への対応（個室や専門スタッフの配置）</li> </ul> </li> </ul>
感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>新興感染症等の感染拡大に備えた体制</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大に対応可能な病床等の確保（転用しやすい病棟・個室の確保）</li> <li>・専門人材の育成・確保</li> <li>・感染防護具等の備蓄</li> <li>・院内感染対策の徹底，クラスター発生時の対応方針（BCP）の策定</li> <li>・医療機関間の連携・役割分担</li> </ul> </li> </ul>
災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>災害時に備えた体制</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ巨大地震等を想定した医療体制の確保（耐震化，浸水対策等）</li> <li>・医薬品，食料，水，燃料の備蓄</li> <li>・非常電源（自家発電装置）の確保</li> <li>・被災地の医療を確保するための広域的支援体制（DMATの派遣等）</li> </ul> </li> </ul>

### 3 拠点に求められる高度医療機能 ③

分野	求められる医療機能
D X	<p>➤ <b>デジタル技術やデータの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H M ネットを基盤としたデジタル技術の導入促進，診療情報の共有化，地域医療の支援</li> <li>・ オンライン診療の普及促進</li> <li>・ 電子カルテの共有</li> <li>・ 集積された診療情報を治療研究・開発等に活用</li> </ul> <p>〈活用例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 患者の診療情報の共有～基本情報，アレルギー歴，お薬情報，検査値，医療画像，各種レポート</li> <li>✓ 救急時や災害時の患者情報の把握</li> <li>✓ 専門医による診療支援～ウェブカンファレンス，遠隔読影</li> <li>✓ 医療の高度化～重症化予測，治験，A I 診療の開発</li> </ul>
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床分野における教育的な機能</li> <li>・ 臨床研究を支援する機能（臨床研究は医療機能の向上・維持に不可欠）</li> <li>・ 病院経営や統計処理等をサポートする機能</li> </ul>

# D Xによる高付加価値化

集まった診療情報等を大学や企業の研究開発に活用してもらうことで、新たな付加価値を創造し、患者や県民にその便益を還元する。





## 4 拠点に求められる人材育成・供給機能

### (1) キャリア支援センター

人事情報（ニーズ&シーズ）を集約・共有し、効率的なマッチングを支援するとともに、ライフステージに配慮しながら医師のキャリア形成を支援する体制が必要。

〈検討課題〉

- ・ 医師派遣のインセンティブの導入
- ・ 医師に提示するキャリアパスの作成

### (2) 総合診療医の育成

高齢者の増加により、全人的な視野で患者と地域を診ることができる総合診療医のニーズは高まっており、総合診療医の育成は急務。

〈検討課題〉

- ・ 地域医療を実践する病院と連携した魅力的な研修プログラムの作成
- ・ 指導者の確保とスキルアップ

### (3) デジタル技術やデータの活用（再掲）

HMネットを基盤としたデジタル技術の導入を促進し、診療情報の共有化、地域医療の支援を進めて医療の質向上を図るとともに、集積された診療情報を治験研究・開発等に活用して医療の高度化を促す。

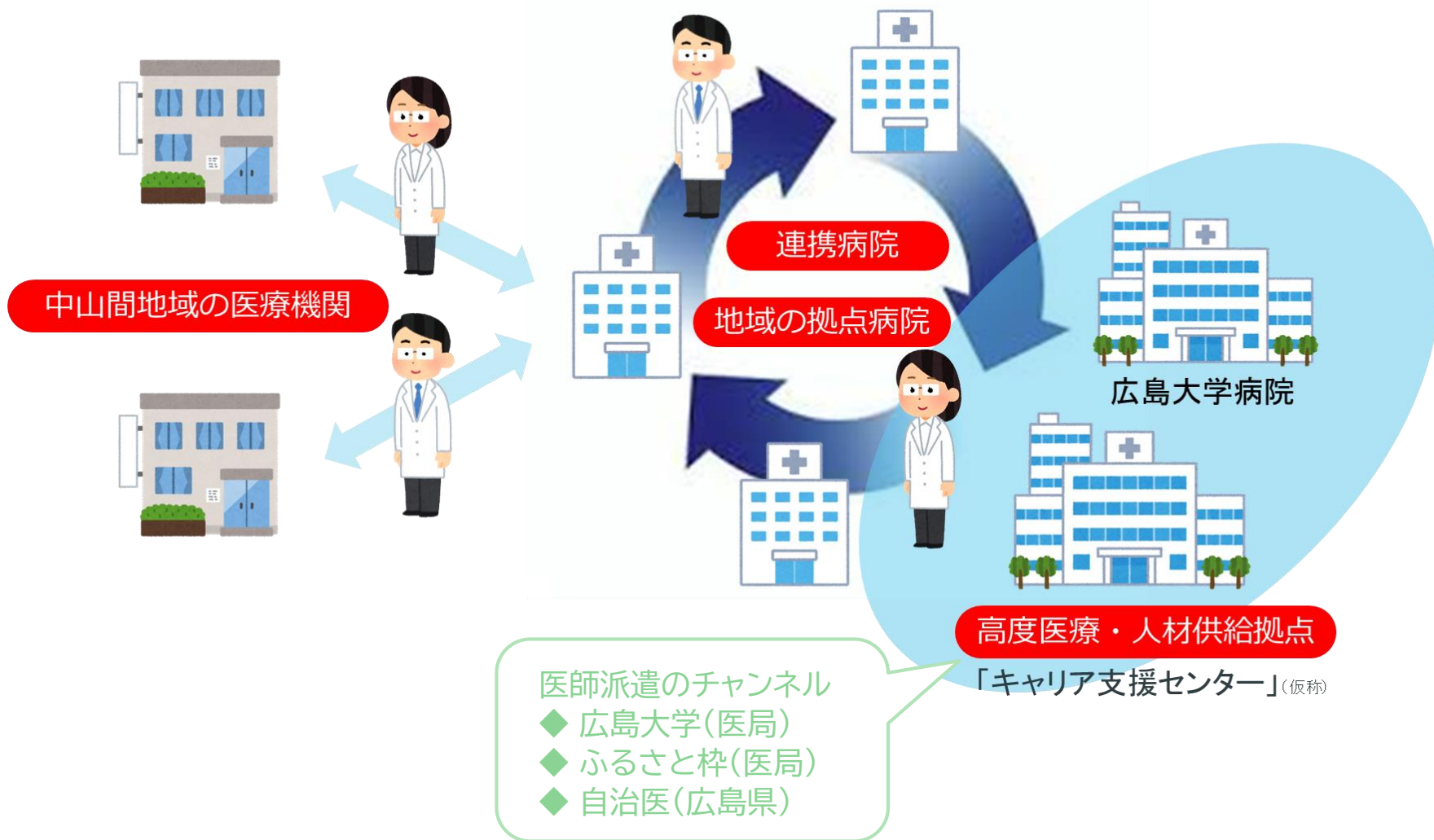
〈検討課題〉

- ・ 全医療機関間での診療情報の電子的共有
- ・ 中山間地域の医療支援（D to P with D/N）



# 医師の人事交流

- 病院群のネットワークの中でローテートしながらキャリアアップ
- 人事情報（ニーズ&シーズ）を共有して効率的なマッチングを支援



# 広島県北西部地域医療連携センター

## 屋根瓦式教育体制～広域の研鑽・研修・人的交流



雄鹿原診療所



豊平診療所



安芸太田病院

- ・医師派遣
- ・当直支援
- ・ウェブカンファレンス
- ・抄読会 など



安佐市民病院

北西部地域医療連携センター

# キャリア支援センターの機能（試案）

区分	機能（ねらい）	内 容
スキルアップ支援	魅力的な研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的で幅広い研修が可能な研修プログラム</li> <li>・たすきがけ研修</li> <li>・多くの症例に触れる機会の確保</li> </ul>
	ローテーションによる幅広い臨床経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリケアの臨床能力の修得</li> <li>・総合診療科，感染症科，救急科のローテーション</li> </ul>
	専門医資格が取得しやすい環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医の確保と支援，指導医に対する適正な評価</li> <li>・カリキュラム制の導入</li> </ul>
	臨床支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによるウェブカンファレンス</li> <li>・医療職の再教育（総合診療医の育成等）</li> </ul>
	学会活動や研究活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週4日勤務による学会・研究活動の促進</li> <li>・学会参加時等の代替医師の派遣</li> </ul>
生活支援	ライフステージに配慮した勤務地 女性医師への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚，出産，子育て，受験等に配慮した勤務地</li> <li>・短時間勤務が可能な体制の確保</li> <li>・保育所の設置</li> <li>・定年後のキャリア継続</li> </ul>
	医師の働き方改革 ワーク・ライフ・バランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タスクシフト，タスクシェアリング</li> <li>・救急救命士の配置（救命救急センター）</li> </ul>

## 5 拠点の整備に向けて ①

県民に高い水準の医療を提供するとともに、県全域の医療体制の確保に向けた医師等の育成・交流の拠点として、医療資源の集約による、急性期医療を中心とする病院（「**みんなの病院**」）の整備が必要である。

規 模	症例の集積効果が見込まれ、医師を惹きつけるインパクトがある病床として、 <u>「1,000床程度」</u> が必要ではないか。
建設候補地	必要な病床数を確保するための建築面積、交通の利便性、南海トラフ巨大地震を想定した防災上の視点等から <u>「広島市東区二葉の里」</u> を建設候補地としてはどうか。
運営形態	拠点に求められる役割を確実に果たすため、柔軟で機動力のある業務執行が可能な運営形態を検討する必要がある。 [想定される運営形態] <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地方公営企業法全部適用</li><li>・ 地方独立行政法人</li><li>・ 指定管理者制度</li></ul>

## 5 拠点の整備に向けて ②

地域の医療機関全体で一つの病院のような機能を持ち、切れ目のない医療を効率的に提供する「地域完結型医療」を実現するため、機能分化と連携を進める必要がある。

### [機能分化・連携の深化を検討する病院等]

※広島医療圏における公立医療機関及び200床以上の公的・企業立病院（R4.3.18時点で了承を得ている医療機関）

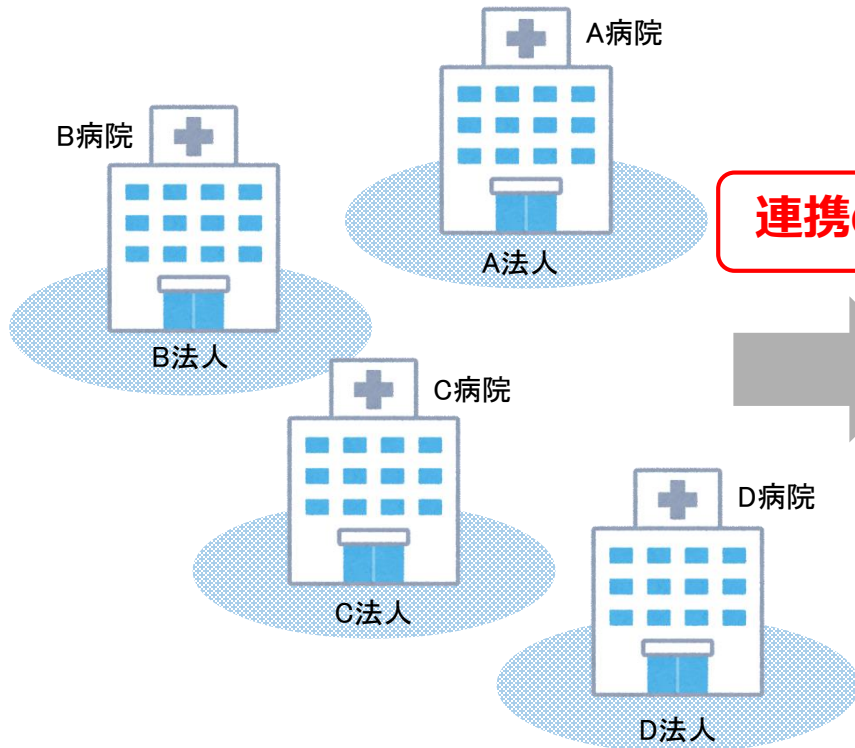
- 広島大学病院
- 県立広島病院
- JR広島病院
- 広島市民病院
- 安佐市民病院
- 舟入市民病院
- 広島赤十字・原爆病院
- 広島記念病院（KKR）
- 吉島病院（KKR）
- マツダ病院
- 中電病院
- 広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）

政策医療を担う「県立広島病院」と交通利便性の高い場所に立地する「JR広島病院」の統合による「みんなの病院」の整備を検討してはどうか。

※ 連携の趣旨に賛同する他の医療機関の参加を促す

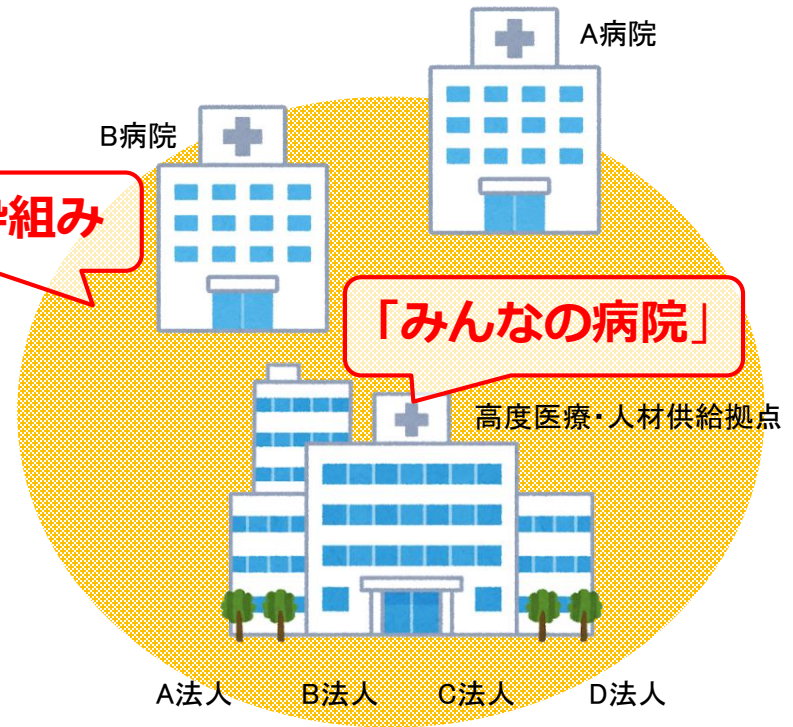
# 病院連携の効果

## 病院完結型



- × 医療資源が分散
- × 役割が重複, 競争関係
- × 医療需要と医療体制がアンマッチ
- × 医師の確保に苦慮
- × 献身的な労働により医師が疲弊
- × 法人の地域貢献は限定的

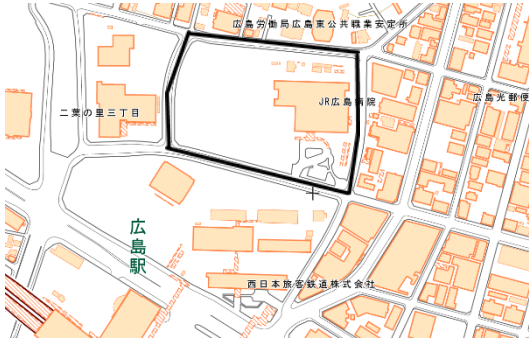

## 地域完結型



- ◎ 医療資源の全体最適を志向
- ◎ 役割が明確, 協調関係
- ◎ 患者の状態に応じた医療体制
- ◎ 医師を安定的に確保
- ◎ 医師の働き方改革に対応可
- ◎ 法人の地域貢献は全県に及ぶ



# 建設候補地の比較・検討

項目		広島市東区二葉の里	広島市南区宇品神田(県立広島病院)
位置			
所有者		民有地	県有地(一部, 他所有者あり)
敷地面積		26,137.75㎡	29,678.75㎡
利便性	広島駅からの距離	徒歩5分	バス25分
	紙屋町からの距離	バス10分+徒歩10分	市内電車20分
法規制	用途地域(都市計画)	近隣商業地域 (医療福祉ゾーン)	近隣商業地域
	建ぺい率	80%	80%
	容積率(都市計画)	300%(最大:450%) [78,413㎡(最大:117,619㎡)]	300% [89,036㎡]
	想定病床数	約1,000床	約890床
防災	地震想定(南海トラフ)	最大震度:6弱	最大震度:6弱
	津波浸水想定	被害想定なし	2m~3m

# 「拠点ビジョン推進会議(仮称)」の設置

## 【目的】

広島都市圏における医療機能の分化・連携を推進することにより、県民に高い水準の医療を提供するとともに、医師等の育成・派遣による県全域の医療提供体制を確保することを目的とする。(拠点ビジョンの実現)

## 【参画機関】(イメージ)

広島大学, 広島県医師会, 日本赤十字社, 医療法人JR広島病院,  
マツダ(株), 中国電力(株), 国家公務員共済組合連合会,  
広島県地域保健医療推進機構, 広島県, 広島市, 広島市立病院機構…

## 【連携して取り組む事項】(イメージ)

- (1) 医療機能の分化・連携の推進(役割分担と連携の仕組みなど)
- (2) 患者紹介・逆紹介の推進
- (3) 医療人材の育成・交流(研修体制の強化, 人事情報の共有など)
- (4) 連携体制のあり方検討(連携協定, 地域医療連携推進法人など)